

印刷新報

THE INSATSU SHIMPO

9月24日 木曜日
令和2年(2020年)

日本WPA 抗菌印刷セミナーが好評 オンラインの可能性を実感

都インキが最新情報を提供

一般社団法人日本WPA(A(田島久義会長)は、「抗菌印刷」をテーマにした無料Webセミナーを9月9日に開催し、多くの視聴者を得た。講師は都インキ(本社・大阪市鶴見区)の松本守常務取締役が務めた。

今回は、日本WPAとして初のオンラインセミナーの試み。当日は、午後3時から約1時間、YouTubeライブによる配信で行われた。資料は画面に映し、視聴者が



田島会長

らの質問はYouTubeのチャット機能を利用して受け付けた。

視聴者数は、配信中の画面では120名程度であったが、小川勇造事務局長によると、セミナー終了後に多くの会員から「営業部全員が集合形式で視聴した」、「関係者18名が特別会場で集合研修した」などの連絡が入ったといい、実質的な参加

はかなり上回るものと見られる。セミナー動画は翌10日にも見られる形が取られた。地理上、業務上の制約を受けないWebセミナーの可能性が実感できたことから、日本WPAでは今後も積極的に開催する計画でいる。

■日本WPA会員の経営支援の一環として、新型コロナウイルス禍の中、社会の「安全・衛生」への要求が強まり、印刷物においても「抗菌印刷」に高い関心が寄せられている。今回のセミナーは、水なし用抗菌インキを使用した「抗菌印刷」について、基礎知識から印刷実務、製品開発として少しでもお手伝いしたいと考え、セミナーを企画した。従来型のセミナーでは望めない人数が参加されている。これも、ある意味でコロナによる改革だ。抗菌インキは、トータルコストなどで課題があると聞いていた。当会でコスト面での解決策も探っていければと思う。

「昨年まで想像すらできなかった未曾有の事態となり、会員の皆さまも大変ご苦労されていることと思う。日本WPAでもdrupaツアーをは

じめ、工場見学会、セミナーなどがごとごとく中止または延期となった。年単位での長期化が予想される。その中で、業績を維持・向上させるため、新たなコロナ対策商品の開発などを工夫され、すでに商品化している会員企業もある。当会として少しでもお手伝いしたいと考え、セミナーを企画した。従来型のセミナーでは望めない人数が参加されている。これも、ある意味でコロナによる改革だ。抗菌インキは、トータルコストなどで課題があると聞いていた。当会でコスト面での解決策も探っていければと思う。

都インキの松本講師について小川事務局長が紹介し、講演に移った。

〈講演内容の詳細は5面に

2020年(令和2年)9月24日(木曜日)

印刷新報

日本WPA セミナーより

抗菌インキで安心強化

都インキ 松本守常務取締役が解説



松本講師が資料を示しながら説明した

適正な盛量など重要に

抗菌加工製品、抗菌剤の安全性がSIAA自主基準に適合していることが条件となる。

また、たとえば都インキの製品を使っている場合、同社の試験結果をもとってSIAAへの紹介を受け、加入する方法もある。

また、実際の使用にあたっては、「インキの適正な盛量が大事になる」といい、松本講師は次のように説明した。

「二つの膜厚の管理は、推奨マイルージは、菊全サイズ、全ベタで1000~2000枚/kgとしたい。」

また、抗菌効果の持続性については、「印刷面から銀イオンが溶出し、細菌に摂取されるため、基本的には銀イオンは消費されていくが、抗菌剤の

「NU M Cure」製品として、水なしインキでは、油性の「NU Dry」におよばない抗菌インキシリーズ、UVの

「NU M Cure」製品として、水なしインキでは、油性の「NU Dry」におよばない抗菌インキシリーズ、UVの

9月9日にオンラインで開催された日本WPAの抗菌印刷セミナーでは、最初に松本講師が、細菌とウイルスの違いなど基礎知識について解説した。コロナやインフルエンザ、ノロなどのウイルスは、物質と生物の間に位置づけられ、自己増殖はできないが、他の細胞に侵入して増える。抗菌の定義は「製品の表面における細菌の増殖を抑制すること」(経済産業省の抗菌加工製品ガイドライン)であり、ウイルスに対しては、「他の細胞に侵入し、殺菌、滅菌、除菌と区別される。抗菌とは、細菌が増えないようにするメカニズムのことである」と説明された。

多くの抗菌剤メーカーによる試験では、30種類以上の菌に対して銀イオンの有効性が確認されている。抗菌加工マークには、SEKマーク(繊維製品の抗菌防臭加工)とSIAAマーク(繊維製品以外の抗菌加工)があり、印刷物の場合は抗菌製品技術協議会(SIAA)が認定するSIAAマークが対象となる。

また、実際の使用にあたっては、「インキの適正な盛量が大事になる」といい、松本講師は次のように説明した。

「二つの膜厚の管理は、推奨マイルージは、菊全サイズ、全ベタで1000~2000枚/kgとしたい。」

また、抗菌効果の持続性については、「印刷面から銀イオンが溶出し、細菌に摂取されるため、基本的には銀イオンは消費されていくが、抗菌剤の

「NU M Cure」製品として、水なしインキでは、油性の「NU Dry」におよばない抗菌インキシリーズ、UVの

「NU M Cure」製品として、水なしインキでは、油性の「NU Dry」におよばない抗菌インキシリーズ、UVの

違い、菌を直接殺さないため安全性も高い。多くの抗菌剤メーカーによる試験では、30種類以上の菌に対して銀イオンの有効性が確認されている。

抗菌加工マークには、SEKマーク(繊維製品の抗菌防臭加工)とSIAAマーク(繊維製品以外の抗菌加工)があり、印刷物の場合は抗菌製品技術協議会(SIAA)が認定するSIAAマークが対象となる。

また、実際の使用にあたっては、「インキの適正な盛量が大事になる」といい、松本講師は次のように説明した。

「二つの膜厚の管理は、推奨マイルージは、菊全サイズ、全ベタで1000~2000枚/kgとしたい。」

また、抗菌効果の持続性については、「印刷面から銀イオンが溶出し、細菌に摂取されるため、基本的には銀イオンは消費されていくが、抗菌剤の

「NU M Cure」製品として、水なしインキでは、油性の「NU Dry」におよばない抗菌インキシリーズ、UVの

松本講師は、抗菌試験

方法として、耐水性試験

難しいが、盛りが多い場

合より、少な過ぎる方が

水ありインキについて